

南相馬市復興有識者会議
提案シート

南相馬市復興有識者会議 提案シート

委員名	上 昌広
-----	------

I 復興にあたり、取り組むべき内容などがございましたらご提案ください。

なお、この様式に限らず、任意の様式で作成していただいても結構です。

介護・医療

南相馬市は医師・看護師を含む提供者が不足しています。これについては、福島医大も同様です。福島医大の養成数を増やすのは、時間がかかります。

短期的には、来年春の診療報酬・介護報酬改訂で「被災地の値上げ」を提唱しては如何でしょうか。雇用が見込めます。政権交代後、民主党が病院の診療報酬を平均7%増やしたところ、全国で20万人以上の雇用を確保しました。

補助金と違い、色につかないカネであり、投資に回せます。

「儲かる」のであれば、私大や全国的な病院チェーンが進出する可能性はあります。被災地の経済規模は小さく、財源的には微々たるものです。また、法改正は不要です。悲しいかな、世間の認知が低すぎます。

長期的には人材育成が重要かと思えます。そのためには、学校、特に大学の誘致が有効です。歴史的に高校・中学校は名門大学の周囲に発展しました。大学については、秋田県の国際教養大学など、小粒でもぴりりと辛い成功例があります。

また、文科省では医学部の新設が議論されています。来春を目途に報告書を作成します。既に千葉県成田市など幾つかの自治体が立候補しています。実は、仙台の仙台厚生病院と東北福祉大も立候補しており、有力な候補です。南相馬市の病院が連携することで、医師の調達が可能になります。東北大・福島医大から、これ以上の派遣を希望することは現実的に難しいと思われま

国家100年の計は教育です。この部分の議論が寛容かと存じます。

南相馬市復興有識者会議 提案シート

委員名

長野県 飯田市
桑原和代

I 復興にあたり、取り組むべき内容などがございましたらご提案ください。
なお、この様式に限らず、任意の様式で作成していただいても結構です。

□コンセプト

○地域固有の価値の創造と市民が主役のまちづくり

地域に住まう人々の視点(身の丈に合った)で、自然環境を受け入れ、先人達が大切にしてきた文化や歴史などを守り、何よりも、「自分たちのまちは自分たちで守る、何とかする」という地域住民ひとり一人の強い自立精神を大切に醸成することが復興であり自立的な地域の経営につながる。

□市民が主役の新しいまちづくりについて(Just Idea)

○デット(税金を納め権利を主張する)だけでなく、エクイティー(自らの資産の一部をまちに投資する投資家として)によるまちづくりのシステムを構築する等により、南相馬市民が名実ともに主役になっていく新しいまちづくりを構想していく。

○復興地方債の発行

○私募債等の小口債券の発行

○プロジェクトベースでのファンド組成

○金銭だけでなく、流した汗もファンディング(復興事業への協力を債権化)

□経済復興について(Just Idea)

○キラークンテンツ:再生可能・新エネルギー最先端都市(再生可能・新エネルギーの聖地)

○スマートマイクログリッド(需給バランスコントロール)

南相馬市の復興会議に参加して、いま、考えなくてはならないこと

中村勉 建築家／工学院大学 110731

原発から自然エネルギーへの転換は急がなければならない。その際、社会の仕組みと同時に、人々の新しい社会に対する価値観も変わることが望まれる。

例えば、自然に対する価値観としては、自然は常に変化し、一定でなく、様々なものが交じり合って成立していることや、自然は「雑」であることで新鮮であり、すべてのものが生きる機会を与えられていることなどを理解する必要がある。

近代化の社会のもつ価値観は、正確さ、安全、安心、スピード、ツルツルピカピカ、たくさんの消費、たくさんの供給などの観点が重要と考えられてきた。この社会では縦割りの専門的な力の集約から新幹線などの素晴らしいものが生まれたが、一方では弱者は切り捨てられ、優秀なものが尊重される。個人主義、格差社会も生じてしまっている。

自然を大事にしようとする社会の価値観は、雑の精神ですべてを受け入れる社会、ガサゴソの社会、誰でも立つ瀬のある社会、誰でも役割を持てる社会である。そして、自然エネルギーは小規模、不安定であるが、本気になれば原発を凌ぐエネルギーを生み出すこともできる。

自然はしたたかである。被災地を4週間前に二度目に訪ねたとき、雑草が黒い風景を緑に戻してくれていたし、津波で破壊された堤防には、ハマヒルガオやタンポポが花を咲かせていた。

社会やまちが、原発、化石エネルギーから脱皮し、自然エネルギーへ転換するとは、どういう意味があるのだろうか、そしてこの機会にどんな新しい社会を創るべきか、時間をかけて考える必要があるだろう。今こそ、すべての市民が自分の人生を思い描き、新しい社会変化を意識し、それに対応する覚悟をしなければならないと思う。

浜通りは40年前は過疎地であった。しかし、美しい浜辺と阿武隈山地に挟まれた農業・畜産牧場が広がる自然の美しい土地であった。原発はこの地に経済的豊かさをもたらしてはくれた。しかし、その豊かさは地域に新しい産業の芽を育てるものでも、地域の文化を継承しながら発展していくものではなかった。今後原発に替わって開発される自然エネルギーであり、関連産業は、地域の自然の力を地域の人々が活用することで成り立っていく産業である。

日本は今後少子高齢化の社会を迎える。人口の縮減と共に、全体の経済は縮減することが予想されている。経済の縮減は都市の経営をも圧迫してくるが、エネルギーを少なく利用する生活環境をつくり、自然エネルギーの上手な利用によって、一人一人が豊かな生活をする事ができる社会を構築しなければならない。

この 10 年間の高齢者の増加は福祉関係の新しい雇用を生み出した。被災地の復旧や、除染も、そして自然エネルギーへの変換も、新しい産業を生み出す可能性がある。

浜通りは、世界に先駆け、世界の英知を集め、ゼロカーボン地域、自然エネルギー地域を目指すことができる。

浜通りは、自然の災害を克服し、自然から恵みを受け、自然の力を利用して再生することができる。

浜通りは、自然を愛し、自然を楽しみ、家畜と共に、農地を耕し、自然な人生を送る、世界の最も美しい土地となることができる。

以上

南相馬市復興有識者会議 提案シート

委 員 名

築瀬範彦

I 復興にあたり、取り組むべき内容などがございましたらご提案ください。

なお、この様式に限らず、任意の様式で作成していただいても結構です。

復興のシンボルとして、復興フェスティバル、鎮魂碑（慰霊碑）、メモリアルパーク・レジャー施設整備が、列挙されています。

総合的に土地利用、施設整備、その運用を考えるべきでしょう。

1. 津波の到達線を何らかの形で残すべきだと思います。
2. 公園的な施設に取り込むべきだと思います。
3. 市民が日常的に利用できることが必要だと思います。

以上から、到達線に沿って歩行者専用道路、サイクリングロードといったものを設ければ、防災上の記憶としても残りますし、公園の一部とすることも可能だと思います。また、それを利用したイベントも可能です。

放射能被害という世界的にも稀有な被害を受けた訳ですから、それを次世代につなぐ意味で以下の2点を提案します。

1. 内部被曝データの蓄積と治療のための施設を早急に立ち上げるべきです。当面は、専門医1名でもいいでしょうから、市内にそうした施設を設けることで将来の研究医療拠点化が可能になると思います。
2. 食品のトレーサビリティを確保するためのシステムを整備すべきだと思います。消費者庁等と連携し、南相馬、福島の商品の100%のトレーサビリティを保証することで、除染後の安全性、信頼性の確保につながると思います。

勝手なことを申し上げましたが、亡くなられた方々はもちろんのこと、市民の皆様、市役所職員の方々のご苦勞を思うにつけ、誠に浅薄なアイデアで心苦しい限りですが、提案させていただきます。

2011年7月31日

南相馬市復興計画づくりの原則について

福島大学 学長特別補佐

うつくしまふくしま未来支援センター担当

教授 山川充夫

I 安全・安心・信頼の原則

- 原発事故・被害・予測・収束情報の完全開示
- 廃炉計画と放射性廃棄物処理計画の明示
- 耐震・耐津波・耐火基準の見直しとソフト防災の重視

II 被災者・避難者に負担を求めない原則

- 東京電力と国による全面的な被害補償と包括的な生活支援
- 事業及び生活再建への全面的な支援
- 避難者の帰還環境の整備と全面的な支援

III 地域アイデンティティ再構築の原則

- 地域固有の伝統的価値の保持
- コミュニティを基軸とした地域再構築
- 居住地外避難者とのコミュニケーションの強化

IV 共同・協同・協働の原則

- 復旧・復興における自主性・内発性の重視
- 新しい公共としての公設民営方式
- 産学官民による協働・連携の促進

V 歩いて暮らせるまちづくりの原則

- 広域的・高規格の交通・通信体系の整備
- オン・デマンド型地域公共交通の促進
- 日常消費生活・医療・福祉のワンストップサービス

VI 産業グリーン化の原則

- 地域資源（農林漁業）の発展的保全管理
- 産業のグリーン変革と研究開発拠点の設置
- 地域産業変革を担う人材育成と高等教育機関の設置

VII 脱原発・脱石油エネルギーの原則

- 原子力エネルギーから再生可能エネルギーへの転換
- 低炭素社会に向けた人口還流の促進
- エネルギー節約の生活様式の確立